

# 居場所を基地に、 本人がやりたいことをかなえ、ともに変身！

～ 出会い、つながり、社会に参加し、本人発信へ展開 ～

【広島市】 広島市西部認知症疾患医療センター  
岡田 眞理  
(元認知症地域支援推進員)  
広島市江波地域包括支援センター  
認知症地域支援推進員 (中区担当)  
梅田沙貴恵

# 広島市について

○総人口	1,199,180人
○65歳以上人口	302,154人
○高齢化率	25.3%
○日常生活圏域数	39圏域
○地域包括支援センター数	41か所
○認知症地域支援推進員数	8人



\* 市からの委託で地域包括支援センターに配置

(2020年3月31日現在)

# 取り組みのきっかけ

若年性認知症の方と家族から相談を受ける中で、当事者が診断を受けて仕事に行けなくなってから公的サービス（障害福祉・介護保険など）を受けるようになるまでの間に行き場がないことを痛感した。

## <当事者の声>

病気が受け入れられない…

自宅で一人でボーとしている

人に知られたたくない…

家族にも話しづらい…

どのように過ごしていいかわからない…

まだできる事はたくさんあるのに

仕事は辞めさせられた！

身体は元気なのに、気持ちが落ち込む

**若年性認知症の人たちをつなぐ場を作りたい ！**

# 取り組みの準備



社会福祉法人広医会 悠悠タウン江波 施設長に相談  
(\* 推進員が所属している法人施設)

➡ 「法人における地域貢献」 としてやろう！

\* 企画や準備は、推進員と当事者・職員・地域の人と相談を重ねながら  
\* 発案から、2か月くらいかけて。

- ・ 開催場所 : 市営住宅集会所
- ・ 開催日時 : 毎週月曜日 10～14時(9~15時)
- ・ 活動内容 : 木工・畑仕事・スポーツ・音楽活動など
- ・ 支援者 : 認知症地域支援推進員+法人職員1~2名+地域ボランティア
- ・ 位置づけ : 施設の地域でのボランティアグループ (昼食を無料で提供)

# 居場所のねらい

- ① 当事者同士のつながりを作る
- ② 役に立つ、仕事で儲ける
- ③ 好きな事をして楽しむ

ニックネームは地元のおさん狐の民話から

## きつね倶楽部



落ち込んでおらずに、楽しい自分に変身しよう！



マスコットはボランティアで参加している認知サポーターが作成（商標登録済み）

# きつね倶楽部 活動実績

< 2017年6月～2020年10月 >

- ・参加者実人数 男性15人 女性4人（スタートは2人から）
- ・年齢 40～69歳
- ・病名 アルツハイマー型認知症 前頭葉側頭葉型認知症
- ・介護度 未申請～要介護5
- ・つながったルート 認知症地域支援推進員・認知症疾患医療センター  
専門医クリニック・ケアマネ・地域包括支援センターなど

# ケース紹介 Aさん

- 40歳代 男性 アルバイト勤務（診断後辞職）
- 2年前に友人が本人と一緒に遊びに行き、自転車の置場所がわからないことに気づき本人の母親に相談。総合病院受診し、うつ病の診断を受けるが、父親が納得がいかず精神科受診し若年性アルツハイマー型認知症の診断を受ける。
- 精神科のデイケアを紹介され通うが、ルールが厳しくて本人が行かなくなる。父親が「本人のしたい事・できる事を一緒に考えてくれるところはないか？」と認知症カフェを訪ね廻る。
- 趣味 バンド活動（ドラム演奏）、サッカー、コーヒーを淹れる



# きつね倶楽部でのAさん



ペンキ塗り



畑仕事



コースター作り



フットサル



コーヒー豆を挽く



ボンゴをたたく



# 現在の支援体制



きつね倶楽部

居宅介護

ショートステイ



友人は「できる事は付き合うよ」と時々遊びに来てくれる

就労継続支援B型事業所

専門医



民生委員・近隣住民は優しい見守り

移動支援

(広島市の事業)

ソフトボール

認知症対応型通所介護

町内会 (認知症サポーターがいる)

# 販売した作品



コースター



組み立てベンチ



踏み台



カフェの看板

# やりたいことを一緒に

- 本当は、油絵が描きたい。  
家では汚れるから…家族にこれ以上迷惑をかけられない。  
後始末が大変だしね。
- 高級ホテルの板前だったよ。
- 認知症になったら、包丁は危ないからってクビになった…  
マイ包丁があるよ！（包丁）研いたげようか？
- 空いた花壇でバラを育てたい！



# やりたいことを一緒に



## 包丁とぎ

さすがプロ！ よく切れるようになりました。

## 油絵

至福の時間・集中してます！



## バラの手入れ

薬が難しいですが、さすがです！

# 座談会

「頭を治して」と言ったけど  
何も答えなかった・・・



先生、優しいよ・・・

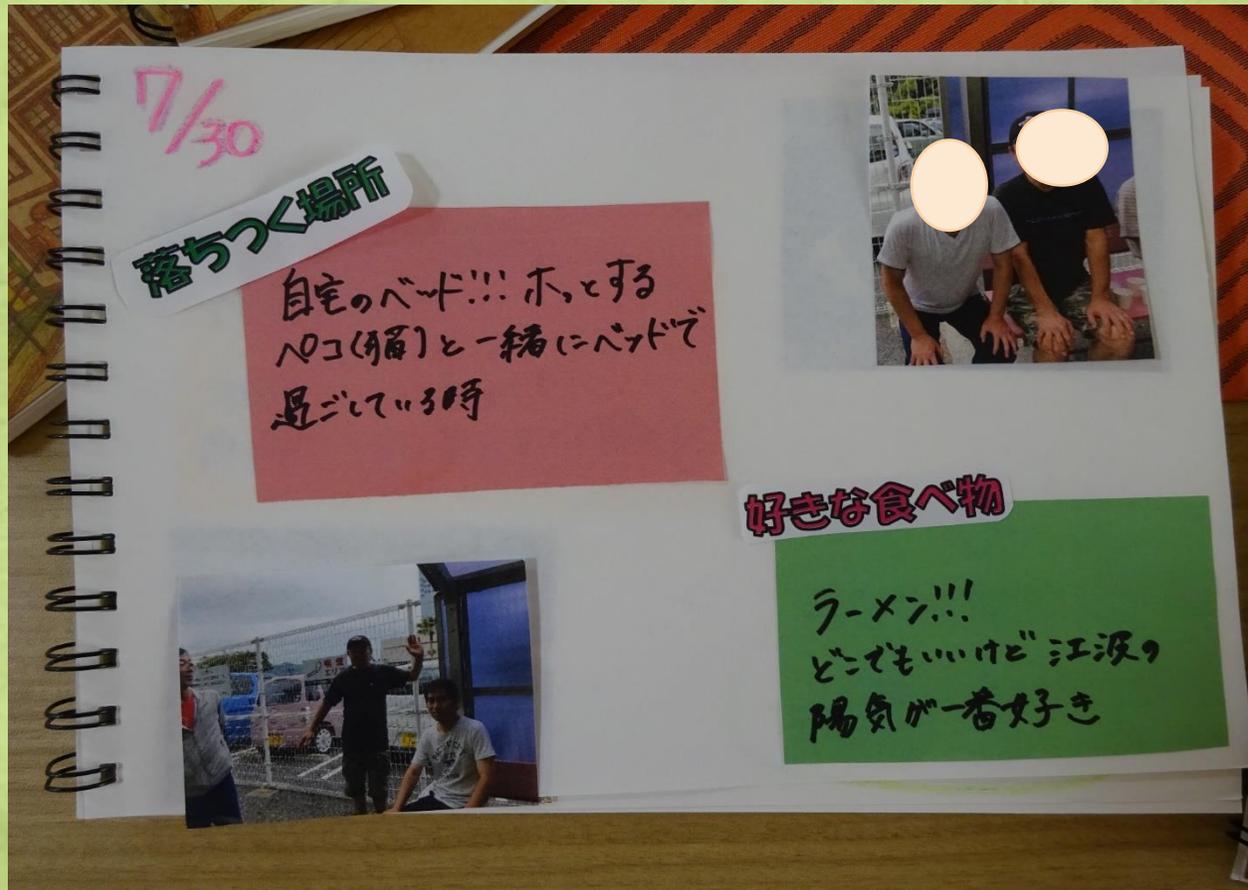
主治医が優しいから、大人しくしとけばいいんです。

辞めてよし！  
わからん・・・  
(笑顔)

この日のテーマ  
「医者に言いたい事・聞きた事！」



# 本人の言葉を残す



家族のために  
本人のこれからの生活のために



# きつねカフェ



参加者家族ミーティング  
3か月に1度土曜日  
10:00～12:00

# 家族の声

- (本人も傷ついているが) 家族(私)も傷ついている。  
周囲には、それを理解してもらえない。  
腫れ物に触るみたいに接されて悲しい、傷つく、寂しい。
- 診断された時は、「若いのになんで！」って思った。  
寝込んで食べられなくなった。  
そのあとに、怒りがでた!
- 診断された時は、しばらく現実でないと思った。(受け止めたくない)  
悲しむより、次は何をしないといけないのかを考えるのが、先だった。  
当分、子供にも親戚にも職場にも言わなかった。



# 当事者及び家族にとっての意義

- 精神的に安定した。（明るくなった・よくしゃべるようになった・行くのが楽しみ）  
→ したい事ができる！自分だけじゃない！
- 様々な支援に繋がるきっかけとなった。  
→ 障害福祉,介護保険サービス・年金・専門医  
認知症カフェなど
- 一緒に考えてくれる仲間が増えた。  
→ 家族同士・施設職員・ボランティア・地域住民など



# 専門職や住民にとっての意義

- 支援をする側、支援される側としての出会いでなく、さまざまな活動を通して仲間意識が生まれる。→ サービス導入がスムーズ
- ひとりひとりの応援団を作ること、アイデアが生まれ仲間が増える。  
→ ケースの困りごとを自分毎として考える機会となり、少しずつのボランティアがつながり広がる。
- 地域住民にとって若年性認知症の理解・啓発が自然にできる場となる。
- 地域包括支援センターを介して、簡単な仕事を頼める場となる。  
→ 草抜き・タンスの移動・水やりなど

# 課題

当初プラットフォームと  
考えていたが、基地になり  
卒業は難しい

受け皿不足

新しい希望者が受け  
入れられない。

待機者が増える

きつね倶楽部

専門分野

多角的な支援

インフォーマルサービス

フォーマルサービス

地域との交流

多世代

# 課題解決に向けて

研修会

地域住民への啓発

医療デイケア

認知症疾患センターと連携

他区での  
居場所

推進員同士の連携

若年性認知症  
事例検討会

きつね倶楽部

社会資源の開発

ひとりひとりを大切に

応援団作り

自分事として考える

仕事を越えた  
アイデア

制度を超えて

専門職の  
つながり

# きつね倶楽部からのメッセージ



元推進員



やり続ける



ケア専門士



保育園児

安心して過ごせる基地



絵画ボランティア



地域の高齢者



仲間が増える



音楽ボランティア

ご清聴ありがとうございました！

